

会員投稿 『祖父江』 姓について 新田町 祖父江常雄

我が家は祖父の代に、名古屋市の北西に位置する、愛知県中島郡祖父江町より名古屋市内へ転居し、昭和三十四年私が群馬県新田郡尾島町へ転勤するまで居住していた。

名古屋市周辺には「祖父江」姓の家も、会社名の看板も多かったのも、それほど珍しい姓とは思わず、たまたま東京へ出張の折名刺を交換すると珍らしげに見たり、何とお呼びするのかと、聞かれる事もあったが気に止める程のことでもなかった。然し、尾島町の社宅に住み、その後新田町へ転居、平成一年にリタイヤして地域社会の方々との付合が多くなると、会う人毎に珍しい姓ですね、どちらの方ですか……が初対面の冒頭の挨拶となると、気にもしていなかった「祖父江」姓のルーツについて調べ、群馬で生れ、育ち、文字通り上州子である子供、孫に「祖父江氏」の歴史を残す必要があると考え、調査を始めた。

今回提示する資料は、関係記録を引き写したままで、読解、関連付け、など突込んだ調査までに至っていない、素資料の列記に過ぎません。たまたま、私が入会している古文書同好会の発足十五周年記念誌に投稿する為、まとめたもので「菱の実会だより」には、そぐわない内容と思いましたが埋め草代りにはなるかと思い提出しました。

一、我家の伝承

祖父より、我家の先祖は「祖父江ほうさい」と言う武士である、と聞いている。

二、姓氏、家系大辞典 太田 亮 (角川書店版)

祖父江

①尾張の祖父江氏

中島郡、祖父江邑より起りし氏にして“張州府志”“尾張志”等に據るに「祖父江城（上祖父江村）は“井野藏人”住いしといひ伝へたり」と載せ、而して、「西島城（西島村）は“祖父江五郎左衛門”が居城」といひ、「竹越城（竹腰村）は、“祖父江大膳”住いし由」といひ伝う。“祖父江五郎左衛門”は信雄、従士也。又、愛知郡にも存し、又、海部郡の人に“祖父江弾正正成”あり。

② 藤原氏、徳川家臣にして「先祖、加治田、或は、松永と称す、後、外家祖父江を冒す」家紋は、五本骨三扇、丸に扇地紙、桔梗にして「作左衛門正忠（久左衛門、初め吉隆）一孫太夫正親（藤兵衛）一作左衛門正秀（太五郎主馬）一正張一正暁」と、寛政系譜に見ゆ。

③ 雑載

高知、山内藩、重臣に此の氏あり、又鯖江藩に“祖父江恭助”。美濃にも存す。

三、日本の苗字、読み解き辞典 丹羽基二 (柏書房)

そぶえ…そぼえ

水のある金鏑の浮いているところに由来。

祖父江という苗字は、全国で七千人程居り、多くは東海地方に見られる。それというのも、愛知県中島郡祖父江町のほか、岐阜県養老郡養老町、同県本巣郡穂積町にも、祖父江の地名はある。尚「寛政重修諸家譜」を見るに、ここから藤原氏流の徳川氏家臣が出ている。また“張州府志”“尾張志”などでは、祖父江城（現祖父江町）根據として活躍した、祖父江一族がいたことがわかる。

四、大日本地名辞典 吉田東伍（富山房）

祖父江古城址一下祖父江村に在り、始め“祖父江五郎左衛門尉久豊”ここに住せしが永禄の頃、同郡竹腰村へうつり、其子息、孫九郎信勝、居住して、大膳、又、芳斎、と号し、福島正則に随身し、慶長年中、家断絶せり。

五、文化武鑑（文化五年～八年） 大名編

山内氏一本国、尾張、石高二十四万石二千石。

松平土佐守豊興。主な家臣。「御城使」祖父江十右衛門

六、祖父江町、及び、その周辺で“祖父江”の地名（大字、小字など）を有する市町村の郷土史を調査。

①祖父江町史

第3節、祖父江を領知した、中世の土豪“祖父江氏”

室町中期、知多の荒尾氏について尾張第二位の土豪、中島氏もともに、戦国時代になると、幕府の庇護がうけられず（幕府弱体化）、新しい守護大名勃興によって勢力を失った、この国人、国衆といわれる連中を組織化して家臣団を作りあげたのが信長であり、秀吉であった。中島氏に代って祖父江を領知したのは、祖父江氏である。この祖父江氏については、近世尾張の野史類が伝える、“祖父江五郎左衛門久豊”系。津島神社所蔵文書にある“祖父江五郎右衛門秀重”系。があり、この両系統が同一のものか、まったく関連がないものか、現在までの研究では明らかにすることができない。

“五郎左衛門久豊系”

伊勢国司、北畠大納言の家臣、白石城主、富田左近太夫の子、五郎左衛門久豊が、祖父江へ来て信長に属し、住地の祖父江を号した。又、“濃陽祖父江村記”によると、伊勢安濃津城主、平勝元の弟と記してあるが、祖父江氏の出自を裏付ける資料はない。五郎左衛門久豊は、信長に属し、祖父江地方に住していたと思われる。“尾張志”所引の“人物志”には、祖父江五郎左衛門、中島郡祖父江村の人、とうたっている。又、“信雄郷従士分限帖”に千貫、祖父江五郎右衛門と記し、左、右、何れをよしとも定め難い。

五郎左衛門久豊一孫九郎信勝（芳斎大膳亮と号す）祖父江を領す、祖父江城跡あり。永禄年間（一五五八～六九）中島郡竹腰村へ所替、古城址あり。

西島村（現稲沢市）恵日寺は、明応九年（一五〇〇）久豊の再建以来、祖父江氏の菩提寺、西島城址あり（恵日寺域）、信勝も居住したとの里伝。

“五郎右衛門秀重系”

“張州雜誌”巻六十六“津島神職系譜”によれば、祖父江家は、津島神社、神楽家の、満太夫に発し（応永二十三年申年の遷宮帖による）子孫、祖父江光太夫秀長は弟、勝次郎秀治と共に、享禄の頃神職として在職、織田信秀に仕え、天文元年、秀治は大膳亮に任ぜられ、五百貫の知行を得るも、天文十二年戦死。跡職は、秀治の孫（娘の子供）祖父江五郎右衛門秀重が継ぐ。秀重は、大永四年頃生れ、織田信秀より、幼名“金法師”を賜り、信長に仕え天文十九年に、祖父江大膳亮秀治の名跡を継ぐ。信長死後その孫、三法師を擁立し主家存続に努力、天文十三年十月六十二才で病死。長男、次男孫丸共に戦死。末娘が、秀重の遺物を携え、津島神社、氷室神主の弟に嫁す。（次号へ続く）

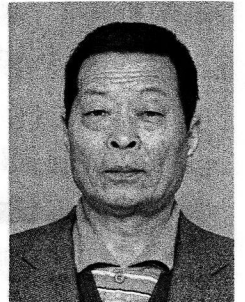
新会員紹介

荒木 計央さん (平成13年3月31日退職)

〒370-0421 尾島町粕川 30-6 電話 0276-52-4062

S35年9月羽布(10年間)をスタートに温水器(10年間)・FHケース組立・神奈商・塗装、FH石油タンク組立・電子レンジ係に、レンジ移管に伴いMHKに(15年間)出向とおかげさまで、多職種を経験させて頂きました、その間諸先輩、同僚の皆様のお世話になり、無事40年間の会社生活を昨年(H13年)終えることができました。

その後1年間は、外孫の面倒で余裕がありませんでしたが、これからは、24時間自分の自由になる時間を得たわけなので、シルバープラン研修時の構想である、土いじりをしながら趣味の山の写真・ハイキング等で健康維持と多大な時間を有意義に使って行きたいと思います。菱の実会の先輩の皆様には又大変お世話になりますが、今後共、ご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



新会員紹介

秋元 正夫さん (平成14年3月31日退職)

〒373-0843 太田市米沢町 209-4 電話 0276-38-2299

昭和35年に三菱電機に入社し、42年間の勤務を終え、この3月31日に定年退職を迎えました。馬電では検査、試験、品証、MHKでは評価、品証、開発試作とほとんど品管、品証関係の仕事をやってきました。とくに業界最初のジャー炊飯器開発では大変苦勞した思い出があります。思えば長い年月でしたがつらい時には励ましの言葉を頂き、楽しい時はいっしょに笑い、いつでも近くで見守ってくださった諸先輩、同僚、他大勢の方々に大変お世話になりました。ここまで頑張れたのも皆様のおかげと感謝しております。本当にありがとうございました。菱の実会ではいろいろな活動があると聞いており、なされるべく多くの行事に参加して皆様との交流を深めたいと思います。特にテニスの愛好者の皆様よろしくお願い致します。その他歩け歩け、ハイキング、博物館美術館めぐり等もやってみたいと考えています。とにかく健康指向で臨みますのでよろしくお願い致します。



会員投稿 『祖父江』姓について 新田町 祖父江常雄 (前月号から)

氷室(祖父江家)に伝えられた古文書は、“津島市史資料編二”に“祖父江文書”十七通として登載されている。

信長判物	(五郎右衛門宛)	二通
信長朱印状	(同上)	四通
祖父江秀重陳状		一通
筑前守秀吉書状	(五郎右衛門宛)	一通
徳川家康書状	(同上)	一通
その他		八通 省略

祖父江文書読下し(代表例)

信長判物

俵子船壺艘之事 書役等令免許上著 無異儀可往反者也
仍状如件

天文廿三

上総守

十一月十六日

信長（花押）

祖父江五郎右衛門尉（秀重）殿

豊臣秀吉書状

為歳暮之祝儀 鷹三 柿一折送下候 切々御懇志祝着候

猶明春早々可申述候 委細 富田可被申候 恐々謹言

（天正九年）

筑前守

十二月廿七日

秀吉（花押）

祖父江五郎右衛門殿御下

徳川家康書状

節々 使者被入精被越候 殊五色到来物 祝着候此表え

儀 今明日之内 敵可為落城候 可御心安候 尚期後音候

（天正十二年）

恐々謹言

六月廿一日

家康（花押）

祖父江五郎右衛門尉殿

②養老町史

祖父江孫左衛門国舎

同弟 源助国成

其弟 孫次郎国之

祖父江の領主で“美濃国諸旧記”に祖父江国舎は、織田信長に仕へ、其子、孫丸国政は、天正十年六月二日、京都本能寺にて討死す。国成は、明智光秀に仕へ、山崎にて討死す。其子孫四郎国俊は、山内土佐守一豊に仕官せり。国之は、後に福島正則に仕へ、法斎といふなり。と記されている。

七 その他

①家紋について

我家の家紋は、五本骨の日の丸開扇で、「家紋大図鑑」丹羽基二（秋田書店）によれば、この家紋の使用家は、源氏出身の、徳山、吉田。藤原氏出身の、徳永、中村、祖父江とのことで、歴史読本（特集一日本の家紋、姓氏）にも同一内容の記載あり。

②祖父江姓の分布

東海地方に偏在している祖父江姓について、NTT 電話帳（平成十一年）により、群馬県、愛知県、高知県（山内藩領）、岐阜県（祖父江の地名のある町）の居住者を調査した結果は、次の如くである。

群馬県 全県下で、四軒（但し桐生市、新田町で一軒に二口電話番号保有あり。他は、大胡町、榛東村 各一軒）

高知県 旧山内藩領を重点的に調査した。高知市十一軒、中村市十軒、野市町二軒、本山町土佐山田町 各一軒、計二十五軒。

岐阜県 養老町、穂積町のみ調査したがナシ。

愛知県 全県下で、壱千八十六軒（但し名古屋市内、三百七十四軒、その他の市部で五百三十二軒、町村部で壱百八十軒。内祖父江町三軒、但し祖父江町を中心として約二十K m以内周辺の市町村で五百六十二軒であった。（おわり）